

地蔵盆プロジェクトによる 地域の活性化と環境にかかるまちづくり

活動場所：伏見区・砂川学区・深草川久保町

活動時期：平成 26 年 8 月～

発表団体

龍谷大学・東高瀬川の環境保護と
地蔵盆プロジェクトチーム



連携メンバー

川久保町自治会
地域の方々
短期大学の学生
砂川学区自治連合会、砂川学区東高瀬川を美しくする会
京都市立伏見工業高等学校・京都市立京都工学院高等学校の生徒

活動内容

町内を流れる東高瀬川は、不法投棄が目立ち地域住民が目をそらす河川であった。その河岸で実施される地蔵盆は、少子高齢化と相俟って参加者が少なくなっていた。そこで、すでに実施されていた地域住民と地元の高等学校の生徒による河川的环境整備活動（清掃・草刈り）への学生の参加をきっかけに地蔵盆の活性化に取り組み、プログラムの中に学生の企画・運営を取り入れ、地蔵盆は盛り上がった。さらに、川岸に並べる「竹灯籠」を平成 26 年から毎年実施し、地域の恒例イベントとして定着してきた。人々を遠ざけていた河川は地蔵盆の会場として整備され、不法投棄も減少した。河川的环境解決の方向性と地蔵盆の活性化が地域に相乗効果をもたらした。

取組の成果・活動で工夫した点

平成 28 年に、地蔵盆に関する住民アンケート調査を実施した結果、「竹灯籠」を継続して欲しいとの声が多かった。そこで、京都工学院高等学校において地域住民・高校生・大学生が、40 個の竹灯籠を手作りした。さらに、地蔵盆プログラムは学生の企画・運営と子供会が実施するプログラムの日程を分けたことで、それぞれの役割分担が明確化した。高齢者宅に子どもたちと学生が出向く「スタンプラリー」は、高齢者にたいへん好評であった。地元自治会は大学との連携を通じて住民の地域行事への関心の高まりを受け、「地域の防災活動」の充実に向けて動き出した。大学と地域の連携イベントとして「市政出前トーク」を実施したところ、地域から予想以上の参加者を得て、地域活動の活性化が方々ではじまってきたと実感している。

連携メンバー・役割

川久保町自治会	活動場所の提供、川久保町子供会との取り次ぎ、機材提供、現場調整
地域の方々	地蔵盆の参加、草刈り、清掃活動、機材提供、広報活動（『川久保町だより』の回覧）
短期大学の学生	地蔵盆プログラムの企画・運営、草刈り、清掃活動
砂川学区自治連合会、砂川学区東高瀬川を美しくする会	草刈り、清掃活動、地蔵盆の参加
京都市立伏見工業高等学校・京都市立京都工学院高等学校の生徒	竹灯籠の制作・協力、資材（青竹）の提供、地蔵盆の企画・運営

今後の課題・目標

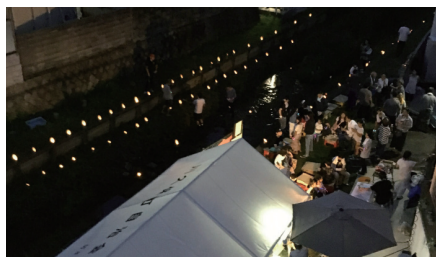
◆今後の課題

不法投棄の減少を受け、地域住民に河川への関心を高めてもらうため、ホタルを飼育して飛来させる活動が始まった。今年度はプレイベントに終わったが、次年度に向けてホタルの幼虫の飼育にも協力していく。ホタルの幼虫を飼育して地元の河川に飛来させた経験のある団体に、その方法等を学びたい。

さらに、防災活動について住民の関心を高める手法があれば、他団体から学びたい。

◆目標

「初夏の東高瀬川には、ホタルが飛来している」という話が口コミで拡がれば、不法投棄の問題は、さらに解決に向かう。また、地域住民・高校生・大学生が共に河川の清掃活動を継続してきたことも、河川への関心を高め、竹灯籠や地蔵盆がより盛大になっていく。地蔵盆の活性化だけが目標ではなく、地域の課題を解決するためには外部（高校生や学生の活動）と地元住民の主体的な行動や賛同する団体の存在も大きな力となる。外部からの活動をきっかけに、それらの活動が地域に拡がれば、大きな成果を生み出すと確信する。



関連 WEB サイト：

<https://www.ryukoku.ac.jp/challenger/challenger12/20170907/index.html>

<http://www.consortium.or.jp/chiiki/20850>